

- ・思い出の一つのようでそのままにしておく麦わら帽子のへこみ
 - ・「また電話しろよ」「待ってろ」いつもいつも命令形で愛を言う君
 - ・落ちてきた雨を見上げてそのままの形でふいに、唇が欲し
 - ・「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
 - ・愛人でいいのと歌う歌手がいて言ってくれるじゃないのと思う
- (俵 万智)

- ・今日晴れと言ったよ天気予報士さんなぜぼくは今ずぶぬれなのか
- (中一 新谷宗樹)

- ・してないと言う君のこと信じたらぼくだけしてない夏の宿題
- (小六 大牧拓登)

- ・観覧車回れよ回れ思ひ出は君には一日（ひとひ）われには一生（ひとよ）
- (栗木京子)

- ・さみしくて見にきたひとの気持ちなど海はしつこく尋ねはしない
- (杉崎恒夫)

- ・長き長き手紙を書かむと思ひしにありがたうと書けば言い尽くしたり
- (稲葉京子)

- ・祭りより戻る次男はいつよりかカメも金魚も連れ帰り来ず
 - ・おまえではないかと母より電話あり銀行強盗うつむく写真
 - ・「君たち」の中に私も含まれて妻の説教まだ終わらない
 - ・こころ病む友へ送りしファックスは「う」と「つ」の間に「ち」と「か」を入れて
 - ・娘よ旨き肉ジャガ作れ息子よだまさるるな肉ジャガなぞに
 - ・道祖神のごとく寄り添い微笑みてパックに収まる白きエリング
 - ・「ご飯やで」LINEの電波が駆け上がり二階の子らが駆け下りてくる
- (武富純一)

…短歌の先生ってたいていまじめで学者肌だから、深く学問的に教えようとするやろ？。それがアカンと思う。短歌って「歌」やねん。歌の源流って、農業や漁業の労働のときに自然に出た荒い息や溜息や掛け声や。それにいつしかメロディがついてやがて歌になった。平安時代、短歌って愛を伝えるラブレターやったんよ。だから短歌って元々そんな格式張ったもんやないの。カラオケと同じ世界と違うか？、学者センスのもんやないのよ。だから、「やさしく、だれにでもカンタンにできる」。俳句みたいな季語も要らんしね。短歌という遊び…ちょっと知的な言葉の遊び。それで人生が豊かになったら、それでよろしいやん。

(ある夜の居酒屋、女性に「短歌ておもしろいの？」と聞かれて)